

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年2月9日

【四半期会計期間】 第98期第3四半期
(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

【会社名】 フジ日本精糖株式会社

【英訳名】 Fuji Nihon Seito Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 櫻田 誠 司

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋兜町6番7号

【電話番号】 03 - 3667 - 7811 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部本部長 吉水 あ つ 子

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋兜町6番7号

【電話番号】 03 - 3667 - 7811 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部本部長 吉水 あ つ 子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第97期 第3四半期 連結累計期間	第98期 第3四半期 連結累計期間	第97期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	14,497,933	14,264,780	18,958,964
経常利益 (千円)	1,585,336	1,472,106	1,644,616
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,123,047	979,851	1,197,080
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,006,928	1,174,623	1,022,675
純資産額 (千円)	16,838,206	17,733,140	16,853,917
総資産額 (千円)	21,993,997	22,773,471	21,490,994
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	41.82	36.49	44.58
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	77.1	78.4	78.9

回次	第97期 第3四半期 連結会計期間	第98期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	14.41	14.77

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により社会・経済活動の停滞、消費マインドの低下が進み、昨年の緊急事態宣言解除後に段階的に経済活動が再開されたものの、新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えておらず、景気の先行きは依然として不透明で予断を許さない状況が続いております。

精糖業界においては、砂糖消費が減少傾向にあるなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で消費が落ち込み、厳しい販売環境が続いております。

この様な環境下、当社グループは、品質管理の徹底を図り、顧客満足度を高めるため、精糖は製品の安定供給に取り組み、機能性素材は高付加価値提案型の販売活動に引き続き、取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高14,264百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益1,231百万円（同8.4%減）、経常利益1,472百万円（同7.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益979百万円（同12.8%減）の減収減益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

精糖

精糖事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大により消費が落ち込むなか、当第3四半期会計期間に一部回復が見られたものの、ゴールデンウィーク前の需要減などをカバーするまでには至らず、販売数量は前年同期を下回りました。利益面では、堅実な原料糖仕入れにより原材料コストは抑えることができたものの、販売数量が減少した結果、若干ながら減益となりました。

以上の結果、精糖事業の業績は、売上高7,933百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益1,344百万円（同0.5%減）の減収減益となりました。

機能性素材

機能性食品素材イヌリンについては、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、国内外で免疫機能改善効果が注目されたことが追い風となって販売数量が全体的に伸び、特に海外での販売が大きく増加した結果、前年同期比で増収となりました。連結子会社ユニテックフーズ(株)は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主力製品の販売が伸び悩み減収となりました。

以上の結果、機能性素材の業績は、売上高5,717百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益258百万円（同2.2%減）の増収減益となりました。

不動産

不動産事業の業績は、売上高438百万円（前年同期比3.6%減）、営業利益328百万円（同15.0%減）と本社移転に伴う費用の増加により減収減益となりましたが、引き続き安定収益確保に貢献いたしました。

その他食品

その他食品は、タイでの食品関連事業が中心ですが、業績は売上高175百万円（前年同期比21.3%増）、営業損失13百万円（前年同期営業損失43百万円）の増収増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6.0%増加し、22,773百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各財政状態の変動状況は、次のとおりであります。

資産

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ7.1%増加し、10,149百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加等によるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ5.1%増加し、12,624百万円となりました。これは主に投資有価証券の増加等によるものであります。

負債

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ11.5%増加し、3,513百万円となりました。これは主に買掛金の増加等によるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ2.8%増加し、1,526百万円となりました。これは主に長期借入金の増加等によるものであります。

純資産

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ5.2%増加し、17,733百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費等に係る会計基準による研究開発活動の総額は、54百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社の研究開発活動に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社及び提出会社の従業員数に著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績に著しい変動はありません。

(7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい異動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画についての著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,748,200	29,748,200	東京証券取引所 市場第2部	単元株式数は100株であります。
計	29,748,200	29,748,200		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年12月31日		29,748,200		1,524,460		2,366,732

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 自己保有株式 2,896,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,838,700	268,387	
単元未満株式	普通株式 13,500		
発行済株式総数	29,748,200		
総株主の議決権		268,387	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,100株(議決権21個)含まれております。

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) フジ日本精糖株式会社	中央区日本橋兜町6-7	2,896,000	-	2,896,000	9.74

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2020年10月1日から2020年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,638,735	3,207,074
受取手形及び売掛金	2,569,323	2,843,000
有価証券	300,000	300,000
商品及び製品	2,115,006	2,013,503
仕掛品	142,800	117,539
原材料及び貯蔵品	686,590	671,881
その他	1,029,209	998,941
貸倒引当金	2,406	2,837
流動資産合計	9,479,259	10,149,103
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	424,033	379,586
機械装置及び運搬具(純額)	120,163	144,470
土地	2,527,435	2,527,435
建設仮勘定	5,380	16,461
その他(純額)	74,088	92,374
有形固定資産合計	3,151,100	3,160,327
無形固定資産		
のれん	37,864	5,433
その他	129,230	109,257
無形固定資産合計	167,094	114,690
投資その他の資産		
投資有価証券	6,305,030	6,965,406
長期貸付金	341,736	341,788
関係会社長期貸付金	1,757,700	1,756,300
その他	313,502	305,084
貸倒引当金	24,430	19,231
投資その他の資産合計	8,693,538	9,349,349
固定資産合計	12,011,734	12,624,368
資産合計	21,490,994	22,773,471

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	977,866	1,197,391
短期借入金	1,315,989	1,245,280
未払法人税等	96,424	240,219
賞与引当金	116,663	62,489
その他	645,370	768,490
流動負債合計	3,152,314	3,513,870
固定負債		
長期借入金	294,859	362,100
退職給付に係る負債	53,268	32,085
資産除去債務	67,328	76,650
その他	1,069,305	1,055,623
固定負債合計	1,484,762	1,526,459
負債合計	4,637,076	5,040,330
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,460	1,524,460
資本剰余金	2,049,343	2,049,343
利益剰余金	12,557,481	13,241,958
自己株式	717,161	717,188
株主資本合計	15,414,123	16,098,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,525,792	1,758,566
為替換算調整勘定	104,603	64,895
退職給付に係る調整累計額	80,165	72,660
その他の包括利益累計額合計	1,550,229	1,750,801
非支配株主持分	110,434	116,233
純資産合計	16,853,917	17,733,140
負債純資産合計	21,490,994	22,773,471

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	14,497,933	14,264,780
売上原価	10,325,911	10,295,946
売上総利益	4,172,022	3,968,833
販売費及び一般管理費	2,828,089	2,737,597
営業利益	1,343,932	1,231,236
営業外収益		
受取利息	24,295	23,591
受取配当金	65,405	69,466
為替差益	54,649	25,982
持分法による投資利益	98,623	102,022
その他	18,750	31,352
営業外収益合計	261,724	252,415
営業外費用		
支払利息	16,419	11,512
その他	3,901	33
営業外費用合計	20,320	11,545
経常利益	1,585,336	1,472,106
特別利益		
投資有価証券売却益	12	-
特別利益合計	12	-
特別損失		
固定資産除却損	108	431
解体撤去費用	-	91,500
投資有価証券売却損	15,341	-
特別損失合計	15,450	91,931
税金等調整前四半期純利益	1,569,898	1,380,174
法人税、住民税及び事業税	401,871	439,545
法人税等調整額	51,136	36,868
法人税等合計	453,008	402,676
四半期純利益	1,116,890	977,498
非支配株主に帰属する四半期純損失()	6,156	2,352
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,123,047	979,851

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
四半期純利益	1,116,890	977,498
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47,650	232,774
為替換算調整勘定	66,198	43,154
退職給付に係る調整額	3,887	7,505
その他の包括利益合計	109,962	197,125
四半期包括利益	1,006,928	1,174,623
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,017,690	1,180,422
非支配株主に係る四半期包括利益	10,762	5,798

【注記事項】

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)「新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関する会計上の見積り」に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

次の関係会社について、金融機関からの借入れに対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
太平洋製糖株	337,500千円	300,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
減価償却費	89,610千円	164,123千円
のれんの償却額	80,991千円	32,430千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月20日 取締役会	普通株式	295,374	11.00	2019年3月31日	2019年6月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月20日 取締役会	普通株式	295,373	11.00	2020年3月31日	2020年6月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	精糖	機能性 素材	不動産	その他 食品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	8,259,605	5,639,014	454,514	144,798	14,497,933		14,497,933
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,508		4,384	16,451	26,343	26,343	
計	8,265,113	5,639,014	458,899	161,250	14,524,277	26,343	14,497,933
セグメント利益 又は損失()	1,351,658	264,406	386,834	43,742	1,959,157	615,225	1,343,932

(注) 1 セグメント利益の調整額 615,225千円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	精糖	機能性 素材	不動産	その他 食品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,933,466	5,717,383	438,314	175,616	14,264,780		14,264,780
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,589		5,189	14,977	27,756	27,756	
計	7,941,055	5,717,383	443,503	190,593	14,292,536	27,756	14,264,780
セグメント利益 又は損失()	1,344,791	258,473	328,620	13,866	1,918,019	686,782	1,231,236

(注) 1 セグメント利益の調整額 686,782千円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	41.82円	36.49円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,123,047	979,851
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	1,123,047	979,851
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,852	26,852

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月9日

フジ日本精糖株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大	中	康	宏
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	箕	輪	恵	美子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフジ日本精糖株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フジ日本精糖株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。